

中年男性の心の構造
 青草 茂太

下へ起こし

評論社印刷用紙

夜行性カビの双葉 55

その三人もしくは数人の男性が登場する。いづれも中年の、一見部課長ぶりの紳士である。暗闇はすくなく前髪を過かす。

~~彼等の生りてくる場所は~~ 小じ ~~しまりした~~ ~~バリーであつても、小じんまりした小判屋であつてしよ。~~ ~~暗闇はすくなく~~ ~~暗闇はすくなく~~ ~~暗闇はすくなく~~ ~~暗闇はすくなく~~ ~~暗闇はすくなく~~

彼は今夜選ばれた人たゞである。夕方がこの正式の宴会がまんご、二次会でもニモスキヤバシーにまわり、そつと出るとカールへの人射がじんを減り、次のバリーのとがうと押すとまにはその日のうちに家に帰るという強い意志のある者は脱落して、誘わねと断わらない。喜ぶの弱い者さふくめて、どろりとして酒の香りがう逃わらわらるい家の者や、酒の力さかりて心の不満を人にまいてしういたい者どしなどかたりの小人射になつていふ筈である。

そうして、彼はさうにフルイにかけるや、なじみの店の入口からヨロ大キ入ると

とせ